



教育時代新聞 5月6日



先日、「日越教育・スポーツ・人材育成交流会」がハノイに行われました。

日本とベトナムのパートナーシップをさらに促進する目的で、教育人材開発国家評議会事務局、スポーツ総局、NPO法人日本国際親善協会 (JIFA) が協力して、開催しました。

両国の戦略パートナーが進み、ベトナムで交流イベントが次々行われており、また教育・訓練の基礎及び全体の改革に関する議決NQ/TW29号が実施されたという状況の中、交流会が行われました。

ベトナム側については、教育人材開発国家評議会事務局長Mr. Tran Dinh Chau (チャン・ディン・チャウ) 氏、スポーツ総局国際協力部長Mr. Hoang Quoc Vinh (ホアン・クオック・ビン) 氏、駐日ベトナム大使館参事官Mr. Nguyen Gia Liem (グエン・ザー・リエン) 氏が出席しました。日本側については、NPO法人日本国際親善協会 (JIFA) 池田節子理事長、NPO法人ゴールドメダリストを育てる会三宅義信理事長、日本貿易振興機構 (JETRO)、ベトナム日本商工会が出席しました。

また、これから日本に行く技能実習生たち、中学校、高校の校長、スポーツ教師、ハイフォン省、ハーナム省、ヴィンフック省、ホアビン省、ナムディン省、タンホア省、ハーティン省の教育訓練局とハノイ市内の区・市の教育訓練室も参加しました。

開催に当たり、教育人材開発国家評議会事務局長チャン・ディン・チャウ氏は今後20年間でベトナム人の体力と身長の上昇を図るため、「ベトナム政府は【2011-2030年のベトナム人を完全に体力、身長の開発】の提案を許可しました。日本では、スポーツサークルや部活は熱心に取り組まれています。日本とベトナムは親しい関係があり、その中で、日本国際親善協会 (JIFA) とIPMはこの数年間ベトナムの教育を支援しています。」と強調しました。

チャン・ディン・チャウ氏は日本に行く予定がある若者は高い専門技術、言語力を持っている人材になり、両国の発展に貢献出来るために、積極的に体力、専門技術、熱心精神、責任などを修得するよう言いました。

JIFA池田理事長は「今回の交流会を通じて、留学または技能実習として日本に来るベトナムの青年が増加すると期待しています。また、ベトナムの青年は若い頃の時間を活用し、夢とチャンスをも自分の手で実現させ、勉強を通して母国に貢献することと日越の懸け橋になるよう願っています。

今回の交流会の特別な来賓は東京オリンピック1964年とメキシコオリンピック1968年に2回連続重量挙げの金メダルを獲得した三宅義信先生です。三宅先生はメダルを獲得した後、重量挙げの訓練指導を今までやってきました。今76才になっても三宅先生は教授として活躍し、国際名誉会員を務めています。若い時、三宅先生は母親のご支援の下に困難状況に取り組み、新聞配布のアルバイトをやり、世界一になる夢を持っていました。

また、セミナーに出席したスポーツ総局国際協力部長Mr. Hoang Quoc Vinh氏はベトナムのスポーツ教育への熱情と今後スポーツにおける日越協力の期待を語りました。

この機会に、JIFAは就学困難な学生に学資支援金やプレゼントを贈呈しました。

イベントの前日、教育訓練省において、日本国際親善協会 (JIFA) とIPMが教育訓練省を訪問し、「学校における知力・体力の向上と人材育成」についてのセミナーが行われました。

一方、JIFA、IPMとスポーツ総局は重量挙げに関する技能を共有し、実演する交流会を、29日に成功裏に開催しました。この交流会には重量挙げの三宅選手、Hoang Anh Tuan選手とダナン国立スポーツ訓練センターの選手他の皆さんが参加しました。